

# [ 活躍する卒業生 ]

## 世界中の産業発展に貢献する

### 三菱電機株式会社

野口 凌輔 さん 工学部 電子システム工学科 2016年度卒業  
工学研究科 電子システム工学専攻 2018年度修了

業界のリード企業として工場自動化を推進。

FA機器と呼ばれる生産自動化を実現するための制御機器の設計・開発に携わっています。顧客の幅広いニーズや複雑な開発フローを理解し、製品開発を行う必要があるため難しい部分もありますが、その分開発が完了したときの喜びは大きく、やりがいを感じます。直接消費者の手に渡る製品と比べると、FA機器を利用する方の声は届きにくいですが、自身の携わった製品がさまざまな領域で使用されている事例を目にするのはモチベーションにつながります。大きなプロジェクトで採用されることもあり、産業の進歩に貢献できていると実感しています。

企業との共同開発の経験が、今の自分を支えている。

大学の講義や研究で身につけた専門知識はもちろん、企業との共同研究でICチップを開発した経験は特に仕事に役立っていると感じます。共同研究ではチームプレイが求められましたが、これは今も同じです。設計開発職というと黙々と設計図を書いて…というイメージを持たれることもありますが、実際の業務では外部部門の方と連携し、部門間の調整を進める作業も多くあります。学生のうちから共同開発の経験ができたことは、貴重な財産になっていると感じています。



## 包括的な視点から、発展途上国の開発に貢献する

### 在カンボジア日本大使館 専門調査員

今田 晃憲 さん 環境科学部 環境政策・計画学科 2017年度卒業

大学で身につけた専門性と調査のスキルが今の仕事の基礎に。

大学2年生の頃、アフリカで給水支援活動を行うNGOの代表者への取材を機に、国際開発の世界を志すように。社会学や経済学といった幅広い視点から環境問題について学びつつ、卒業研究では日本国内の給水支援を行う約40団体を対象に、質的手法を用いて活動や他組織との連携について調査・分析。その結果、さまざまな情報を集めて複雑な社会問題を分析するという今の仕事の基礎になる能力を身につけました。

憧れの国際開発の分野で、市民参加の促進等に取り組む。

在カンボジア日本大使館では、カンボジアの内政や人権状況に関して、自分の知識や経験を生かしつつ、楽しく働いています。例えば、政府や市民社会組織と複雑な社会問題について議論したり、国際機関とともに政府と市民社会の連携促進に関する案件を実施することもやりがいの一つです。引き続き国際的なキャリアを重ねていき、特に発展途上国における不平等や貧困の是正等、持続可能な発展に貢献していきます。



## 子どもたち一人ひとりの未来のために

### 堺市教育委員会堺市立長尾中学校

平田 このみ さん 人間文化学部 生活デザイン学科 2013年度卒業

教育者を目指したきっかけは、大学時代の経験でした。

学生時代で印象に残っているのは、トランポリンを通じて地域の子どもたちと過ごした時間です。活動のなかで、子どもたちの成長を見届ける喜びを実感し、教師を目指すようになりました。子どもたちと接する上で大事にしていることは、「周りの人や自分の良いところに関心を持つ大切さ」を伝えることです。私の教えに耳を傾けて、子どもたちが互いに認め合う姿を見たとき、仕事へのやりがいを感じることができました。

学科で培った専門的な学びが、今の仕事の強みに。

担当する家庭科の授業では、布やミシンを使った製作の授業を積極的に取り入れています。学科で専攻していた服飾の授業のおかげで、ミシンの基本的な使い方が身についたため、授業の進め方や教え方の工夫に専念できています。家庭科教諭として大学で培われた学びが生かされていると感じる瞬間です。私自身ものづくりが好きなので、子どもたちの新しい発想や感覚、創造力を伸ばしていけるよう、教育者として関わっていきたくです。



## 一人ひとりの人生とまっすぐに向き合う

### 滋賀県立総合病院

濱田 桃香 さん 人間看護学部 人間看護学科 2019年度卒業

近江楽座の実践的な取り組みが、看護師として働く礎となりました。

高校生の時、大きなけがをして精神的にも苦しんでいました。そんな私にいつも優しく声をかけ、復帰までずっと支えてくれたのが看護師さんでした。人に寄り添う仕事の素晴らしさを知り、いつか同じ道を志すように。在学中は近江楽座の未来看護塾の一員として地域の人々に向けた健康イベントを企画・実施。学内外の人々に関わるなかで養われた積極性が、看護師となった今、院内の他業種の人々と密に意見を交わして知見を深める姿勢に生かされています。

現場で学んだのは、患者の一生に寄り添うことの意味とやりがい。

心に残っているのは、担当した患者さんが退院後、「あの時は親身になってくれてありがとう」とわざわざ声をかけてくださったことです。入院だけでなく退院後の生活まで見据えることや、患者さんにとっての最善を長期的に考えること。それこそが患者さんのための看護、ケアであると思っています。これからも患者さん一人ひとりに真摯に向き合った看護を目指します。

